

「雇用」資源の分配による教育投資の構築 —所得・教育機会・時間の「再」分配構想—

阿 部 類

社会には「働かざるもの食うべからず」という勤労倫理が存在する。ところが、文明の発達と共に、労働は「必要不可欠な行為」から「規範的行為」へと変化した。特に、産業革命以降、生産性は飛躍的に上昇し、必要な労働量は減少した。

しかし、それらの技術的進歩に対し、社会の分配システムは停滞している。例えば、豊かな現代でも貧困に由来する惨事が後を絶たない。これは、分配システムが十分でないことを示している。

社会のシステムは、これまでの歴史的経緯を踏襲することで、現在の形を作っている。つまり、この社会は「経路依存性」に縛られているということだ。我々は、自分たちの社会を縛る「経路依存性」の正体を明らかにし、その見直しを図る必要がある。

本論文では、社会的再分配の対象として、「所得」・「教育機会」・「時間」を取り上げる。「所得」は近代以降の人間社会に必要な不可欠な、市場の交換媒体で、「所得」を得るために行われる「労働」は、実践的な社会活動の訓練とも成り得る。「労働」を人的資本形成のための「教育機会」と捉え、社会的に制御することが重要である。このように「教育機会」を分配する社会政策を「教育投資」とし、その社会的制御を推奨する。さらに、本論文では「時間」を、社会的分配が可能な資源と見なしている。「時間」とは、全ての生物に等しく与えられるが、人間社会における「時間」の分配は、働き方などにより偏っている。「時間」とは、全ての活動の前提となることから、社会が率先してコントロールする必要があると考えられる。

そして、ここまで述べてきた「所得」、「教育機会」、「時間」の三点を同時に管理する媒体として、「雇用」という労働形態を取り上げる。「雇用」労働形態を社会的に管理することが出来れば、ワーク・ライフ・バランスの適正化により、労働生産性の向上までも見込めると考える。そのために、雇用労働の在り方を見直し、「所得」「教育機会」「時間」を「再」分配する仕組みの有用性を説くのが、本論文である。